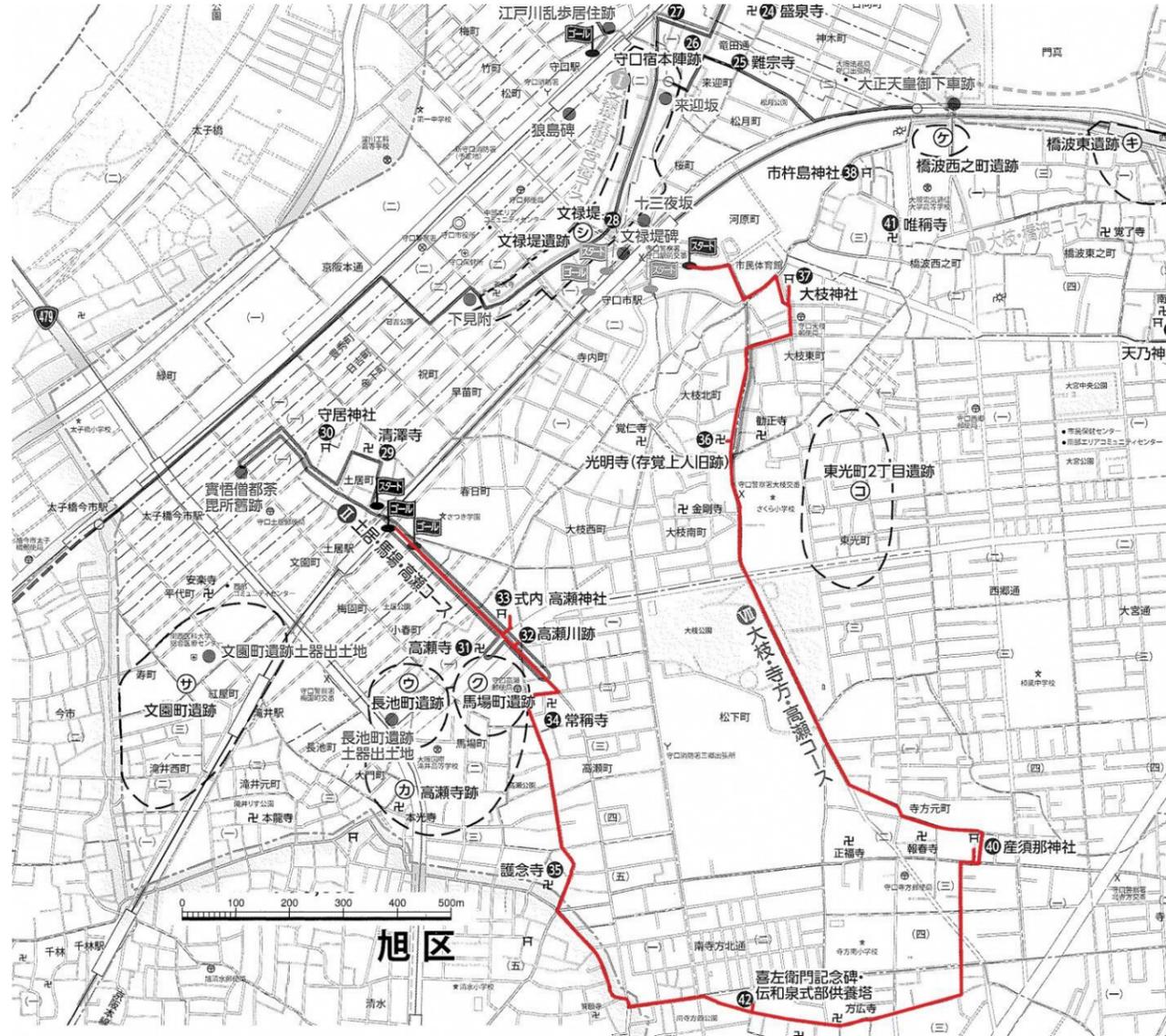


もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースⅦ (健脚)

大枝・寺方・高瀬コース



京阪電車守口市駅 - (300m) - ③⑦大枝神社 - (400m) - ③⑥(大枝)光明寺 (存覚上人旧跡) - (1000m) - ④①産須那神社 - (700m) - ④②喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔 - (500m) - ③⑤護念寺 - (450m) - ③④常稱寺 - (80m) - ③②高瀬川跡碑 - (50m) - ③③高瀬寺 - (50m) - ③①式内高瀬神社 - (300m) - 京阪電車土居駅 - 京阪電車大和田駅 (全 3,830m)



おおえだじんじゃ
③⑦大枝神社



おおえだこうみょうじ
③⑥(大枝)光明寺



うぶすなじんじゃ
④①産須那神社



きざえもんきねんび でんいずみしきぶくようとう
④②喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔



じょうしょうじ
③④常稱寺



ごねんじ
③⑤護念寺



たかせじ
③③高瀬寺



しきないたかせじんじゃ
③①式内高瀬神社

史跡散策コースⅦ（健脚）

大枝・寺方・高瀬コース

京阪電車守口市駅－(300m)－③⑦大枝神社－(400m)－③⑥(大枝)光明寺
(存覚上人旧跡)－(1000m)－④⑩産須那神社－(700m)－④②喜左衛門記
念碑・伝和泉式部供養塔－(500m)－③⑤護念寺－(450m)－③④常稱寺－
(80m)－③②高瀬川跡碑－(50m)－③①高瀬寺－(50m)－③③式内高瀬神社－
(300m)－京阪電車土居駅－京阪電車大和田駅（全 3,830m）

おおえだじんじゃ

③⑦大枝神社

祭神は誉田別尊(応神天皇)で、境内には末社の高吉稻荷神、ならびに東照大権現が祀られています。創建年代は不明ですが、境内の燈籠には元禄16年(1703)と文政8年(1825)、石鳥居は正徳3年(1713)、狛犬は文化2年(1805)、常夜燈は文化10年(1813)の紀年銘があり、江戸時代中期にはすでに存在していたとみられています。



大枝神社

おおえだこうみょうじ ぞんかくしょうにんきゅうせき

③⑥(大枝)光明寺(存覚上人旧跡)

光明寺は行基創建の高瀬寺塔頭の後裔とも伝えられる寺院です。その後、南北朝時代に、浄土真宗本願寺三世宗主覚如上人の長男(親鸞上人の曾孫)存覚上人が、観応元年(1350)に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた光明寺を再興し、教えを広めました。このことから当寺は北河内地方で最古の浄土真宗寺院でもあります。



光明寺境内

うぶすなじんじゃ

④⑩産須那神社

旧北寺方村、南寺方村、焼野村三村の氏神で、菅原道真を祭神としています。文禄3年(1594)の検地では境内が「除地」(年貢免除の土地)になっており、そのころには既に存在していたとみられます。元和元年(1615)、大坂夏の陣で焼失しましたが、寛永元年(1624)には再建、寛延2年(1749)にも再建され、その際、五条家より寄せられた道真像を祀っていました。境内には延享～宝暦年間(1744～64)の燈籠などが残っています。



産須那神社

ごねんじ

③⑤護念寺

護念寺は浄土真宗大谷派の寺院で、「世木御堂」とよばれています。実悟上人は永禄8年(1565)にこの世木の地に元加賀国石川郡の若松本泉寺を再興しました。その本泉寺が文禄3年(1594)に大坂天満に移転することになり、この地の寺院は本泉寺の掛所として護念寺と改称しました。



護念寺山門

きざえもんきねんひ でんいずみしきぶくようとう

④②喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔

旧寺方荘など12カ村一帯は排水が悪く、村民は悪水に悩まされていました。村民は樋を設けることを幕府に願い出ましたが、認められず、南寺方村庄屋喜左衛門は寛永11年(1634)に意を決して樋を築き、水害を一掃しました。樋はそのまま置かれていましたが、喜左衛門は幕府を無視したとして翌年3月15日に処刑されました。明治15年(1882)、12カ村の人は喜左衛門を慕ってこの碑を建てました。

喜左衛門記念碑の右にある宝篋印塔は、和泉式部の供養塔と伝えられるのですが、台座に康永3年(1344)願主妙弥道延の銘があり、南北朝時代のもので



和泉式部供養塔

じょうしょうじ

③④常称寺

常称寺は浄土宗知恩院の末寺ですが、かつては高瀬山華嚴院常称寺と称し、華嚴宗高瀬寺の奥院と伝えられています。この寺は二巻の縁起を蔵し、一つは常称寺の縁起、もう一つは寺に伝わる舎利の由緒を記録しています。常称寺の縁起は『河洲茨田郡十七ヶ所之内小高瀬郷一本寺高瀬山華嚴院常称寺縁起』と称し、行基開創になる高瀬寺の縁起(室町時代の公卿三条西実隆日記『実隆公記』から)を録しています。舎利記は『華嚴院常称寺舎利記』と題し、舎利の来歴と感応のことを記しており、共に奥書から元和4年(1618)のもので、江戸時代初期の資料として貴重です。



常称寺舎利記

たかせがわあと

③②高瀬川跡

高瀬川は古歌にもたびたび詠われており、平安時代には「高瀬の淀」、江戸時代には「守口川」とも呼ばれていました。この高瀬川には、奈良時代の高僧行基がかけた高瀬橋があったとされています。高瀬川は相当大きな川で、かつては淀川の本流であったと伝えられています。



高瀬川跡碑

たかせじ

③①高瀬寺

高瀬寺は浄土宗高瀬山高瀬寺と号し、現在は馬場1丁目にありますが、かつては馬場3丁目にあり、現在地に移ってきました。もとは釈迦寺とも号し、室町時代に建立されたものと考えられています。

境内にある宝篋印塔の台座には「高瀬寺」と刻まれたものが残されています。



高瀬寺

しきないたかせじんじゃ

③③式内高瀬神社

高瀬神社は、平安時代の『延喜式神名帳』に、茨田郡五座の一つとして記載されている式内社で、守口市内屈指の古社です。社伝によると、祭神は天御中主命で、聖武天皇の勅願で、高瀬川のほとりに祀られたとされています。

天正年間(1573～92)に織田・三好の兵火で社殿は焼失しましたが、その後再建され、現在の社殿は江戸時代中期頃に建てられたものです。江戸時代には、神殿その他すべて備わった大社で、八幡宮とも呼ばれていました。



式内高瀬神社社殿